

## イベルメクチンの集団予防内服が効果的であった疥癬の院内感染を経験して

<sup>1</sup>千葉県立東金病院 内科、<sup>2</sup>千葉県立東金病院 看護局

○吉川 雄一郎<sup>1</sup>、林 栄治<sup>1</sup>、平井 愛山<sup>1</sup>、前田 宏美<sup>2</sup>

疥癬には通常型の疥癬とノルウェー疥癬とがあり、前者に比べ後者は多数のヒゼンダニが寄生しているため、感染力はきわめて強い。院内感染の感染源のほとんどがノルウェー疥癬患者である。ノルウェー疥癬患者の場合は、ベッドごと隔離して感染拡大を防止する必要がある。

今回当院でノルウェー疥癬を感染源とする院内感染に対して、イベルメクチンの予防内服を含めた感染対策を行い、感染拡大を防止した事例を経験したので報告する。

当院の内科と小児科の混合病棟において、2011年9月6日、慢性閉塞性肺疾患を基礎疾患に持つ入院患者1名が、入院後3か月経過の時点でノルウェー疥癬と診断された。すぐに個室隔離とし、院内マニュアルに沿って感染管理を開始した。感染患者の入院時からの同室者の調査（すでに退院した患者も含めて）を行った。次いで同年10月11日に新たに1名、10月25日に2名の入院患者が通常型疥癬と診断され、カーテン隔離を行った。さらに同年11月1日に疥癬感染者と同室あるいは接触のあった退院患者5名が通常型疥癬と診断された。これらの患者に対して、イベルメクチン内服とクロタミトン外用で対応した。

また院内感染の発現からさらなる感染拡大防止の目的で、ノルウェー疥癬患者と接触があったと考えられる医療従事者（医師10人（有症状者0人）、コメディカル45人（有症状者3人））を対象にイベルメクチンの予防的投与を行った。予防内服にあたっては同意書を作成し、またイベルメクチンの副作用を考慮し、投与前・投与後で肝機能の確認を行った。

以後感染拡大は確認されなかった。病棟閉鎖を考慮するような事態も考えられたがそれには至らず、迅速な対応で院内感染を終息させることができた。

予防内服にあたっては、適応やコストに関して院内で議論されたが、結果的に予防内服は非常に有効な手段であったと考えられた。

## 当院における陰圧管理可能な個室隔離病棟における対象疾患とその患者背景

<sup>1</sup>埼玉医科大学病院 看護部、<sup>2</sup>埼玉医科大学病院 薬剤部、<sup>3</sup>埼玉医科大学病院 中央検査部、<sup>4</sup>埼玉医科大学病院 感染症科・感染制御科

○畠中 完<sup>1</sup>、吉原 みき子<sup>1</sup>、亀岡 教雄<sup>2</sup>、小山 幸枝<sup>3</sup>、筋野 恵介<sup>4</sup>、樽本 憲人<sup>4</sup>、山口 敏行<sup>4</sup>、前崎 繁文<sup>4</sup>

【目的】当院は院内感染対策を目的で、陰圧管理が可能な14床全室個室の病棟を有している。対象患者は基本的には空気感染対策が必要な患者であるが、実際は耐性菌分離患者も多い。当院では院内感染対策として病棟ラウンドを行っており、転入の必要性があるものについては院内感染対策室と協議の上適時転入を行っている。今回実際の病棟の運用状況について報告する。【方法と結果】入院台帳、各科主治医が記載する転入依頼および看護サマリーを調査した。平成22年1月から平成23年12月までの2年間にこの病棟に入院した患者は859名であった。性別では男492名、女367名、年齢分布は59±31.41歳であり、在棟期間としては最頻値2日中央値は4日であった。主な診療科では、小児科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、総合診療内科、消化器外科であった。主な対象疾患としては、VRE（スクリーニング患者）、RSウイルス、インフルエンザ、結核疑い、CD陽性例、VRE（陽性歴患者）、結核、細菌性腸炎、带状疱疹、MDRP、流行性耳下腺炎、水痘、等であった。【考察】各科の利用の必要性としては、当院の小児科病棟はほとんどが大部屋であり、しかも血液疾患や心疾患などの易感染性宿主が多いため、RSやインフルエンザなど飛沫感染を来す疾患であっても小児科病棟で対応することが困難である為と考えられた。また当院では独自のVREに対する入院時スクリーニング基準があり、消化器内科、腎臓内科では入院時VREスクリーニング検査を必要とする患者が多いため、結果が判定するまでの短期間での利用が多いことが考えられた。【まとめ】以上の傾向から、感染性疾患のスクリーニング病棟、空気感染・飛沫感染患者の隔離病棟、として適切に利用されるようになったものと考えられた。しかし接触感染に対しては各一般病棟個室でも対処可能であるため、今後も感染リンクナースを中心に教育が必要であるとえられる。